

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (△03)

- 目 的** 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。
- 成 果**
1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi 8、DVCを中心に媒体変換を行った。
 2. 音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡のオープンリールテープ録音についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
 3. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
 4. 無形文化遺産関連の音声映像資料11点（作成DVD10点・作成BD1点）を所蔵資料として新たに登録した。
- 報 告**・飯島満：「資料紹介：新内節四曲一昭和三十二年度文化財保護委員会作成記録より一」『無形文化遺産研究報告』15 pp.120-136 21.3
- ・星野厚子：「資料紹介：東京文化財研究所所蔵フランス・パテ社製SPレコード一長唄『寒行雪の姿見』『筑摩川』を中心に一」『無形文化遺産研究報告』15 pp.138-150 21.3
- 研究組織** ○石村智、牛村仁美、金昭賢、中田翔子（以上、無形文化遺産部）、飯島満（特任研究員）、星野厚子、大西秀紀、宮澤京子（以上、客員研究員）